今ここで頑張っています

これまで出会えたヒト・モノ(商品)・研究に感謝 花王(中国) 研究開発中心 上席主任研究員 山崎 律子



1993年に応用化学専攻(修士課程)を修了してから花王で商品開発研究に従事してきました。その中で多数の人々と多様な仕事に出会い、多くの経験をすることが出来ました。印象に残るいくつかの状況やその時の気持ちなどを振り返ってみます。

(1) 入社~1年目: びっくり

入社式での丸田会長(当時)の「桜の葉のすれあう音を感じなさい。」という言葉に驚きました。新入社員に向けての言葉にビジネスの話も研究の話もありませんでした。でも、今はわかるような気がします。使った人に喜んでもらえる商品をつくるためには感性を磨くことも大切。

(2) 出産前後の1年: ガムシャラ

結婚し、1997年に娘が生まれました。出産直前まで、新商品「ビオレふくだけコットン」を担当していました。既存品ではなく、新商品なので、商品の設計、製造方法等全ての検証が手さぐりでした。いくらでも仕事が溢れ出てくる感じで、穴のあいたバケツで水を汲んでいるようでした。体力的にはとてもきつかったけれど、とても充実していました。上司は厳しい人でしたが、「新規提案」についてはいつも強く背中を押してくれました。当時は諍いが絶えませんでしたが、今はとても感謝しています。

出産後、法定8週間の産休のみで、スキンケア研に復帰しました。片意地を張っていた私は、娘がいても(いるからこそ)、仕事の中身も量もこれまでと変えないことを強く意識していました。花王独自のスクラブを素材研(当時)と共同で開発する仕事を担当しました。素材研側のパートナーは、センスがよく、多くのノウハウを持っている方で、あっした。製造法を検討する生産部門から毎日毎日私一人では評価しきれないほどのサンプルが届き、途方に暮れたのを覚えています。テーマのキックオフから商品発売までたった1年でした。この時の仕事は、その後の私の仕事の進め方の基本となっています。そして、今は片意地を張ることが無意味であることがよくわかります。

(3) 最近5年:感謝

最近(2016年7月)まで美容液など「スペシャルケア」といわれる化粧品の商品開発を担当していました。自他共に向かないと思いながらマネージャー

という役割を務めました。よく、戦略がない、マネージメントしていない等と言われました。確かに、私はマネージメントをしていなかったと思いますといるの時間管理をメンバーがしてくれているくらいです。そして、資料づくりに使う時間も、マネージャーをと思います。と一番少なかったと思います。ただ、消費者を幸せにする商品を提供するためには、①メンバーのアイデアをするためには、①メンバーが仕事を進めやこと、②メンバーが仕事を進めやいこと、②メンバーが仕事を進めやいこと、③無駄な仕事を引き受けないようにすること、③無駄な仕事を引き受けないよがらして、メンバーと一緒だからした。今は、自分なりに「私が目指すマネージャーのあり方」などを考えています。

気付けば20年以上花王人として過ごしてきました。意外です。(i)多くの場合自分にとって興味深い・意義深いことが業務内容と一致していたこと、(ii)いつの時代にも苦しい時に助けてくれる人がいたこと、が理由だと思います。私は、ただ気ままに生きてきたように思います。だから、読者の方々にアドバイスできるようなことはないので、以下雑考として。

人間は「哺乳動物」で「集団行動をする動物」なので、母は子供に対して唯一無二の存在だし、一人では生きにくい。だから、人生も、仕事も周りの人に支えられているのだと思います。感謝の気持ちが大切だと思います。苦しい時には、得てして感謝の気持ちを忘れてしまいがちです。誰かに感謝していますか? YESなら大丈夫。思うとおりに人生を謳歌されますように。

私は、この8月から上海にある花王(中国)研究 開発中心に駐在しています。初一人暮らし、初海外

生活です。娘に会えない寂しさを除けば、楽しい毎日です。100%自分のために時間を使えるってスゴイはまだ仕事話した。次回があればその時に。



苦楽を共にしたメンバーと (前列一番左が筆者)